

## 課外活動

平成 23 年 2 月 27 日 (日)

### 地元勢初の栄冠！ 地域科学部 3 年の高木陽輔さんが 全日本学生落語選手権「策伝大賞」に。

※過去最多となる全国 50 大学・大学院の学生 228 人が出場。26 日の予選を突破した 8 人が決勝へ進出。審査員は、細江茂光岐阜市長、落語家の桂三枝さんや立川志の輔さんが務められました。



■ 落語との出会いは小 2 の時。小学校の落語クラブの顧問と担任の先生から「キミは落語に向いている」と、廊下で声を掛けられたのがきっかけだったそう。以来 11 年間、趣味で落語に親しんできた高木さん。尊敬する落語家は大会審査員でもあった立川志の輔師匠。



■ 左は文部科学大臣から贈られた最優秀賞「策伝大賞」の賞状。右は岐阜市長から贈られた「岐阜市長賞」の賞状。

江戸時代の高僧であり、「落語の祖」として知られる岐阜市出身の安楽庵策伝にちなみ、2004年より毎年開催されている「全日本学生落語選手権『策伝大賞』」の決勝が、2月27日、岐阜市長良川国際会議場で開催されました。第8回となる今大会にて、最優秀賞「策伝大賞」に輝いたのは「三流亭今吉(いまいち)」こと、高木陽輔さん(地域科学部3年)。過去最多となる全国50大学・大学院の学生228人が出場する中、地元勢初の栄冠に輝きました。

昨年に続き決勝進出となった高木さんが熱演したのは古典落語の「二番煎じ」。「火事は江戸の華」と言われた時代の夜回り旦那衆と、姑息な役人とのやりとりを、滑稽かつ表情豊かに演じ分け、約1400人の観客で埋まる会場を沸かしました。「この演目、わりと話が地味なので学生にはあまり人気がないんです。それに旦那衆が役人に隠れてコソコソ食べたり飲んだりするシーンがありまして、決勝に進んだ8人の中で飲み食いのパントマイムをやったのが僕だけ。だから目立っていたんだと思いますよ」と冷静に大会を振り返る高木さん。もちろん8分ほどの持ち時間に合わせた本編の編集の仕方、演出の独自性、表現力、声の大きさなどが総合的に審

査される中、すべての項目で審査員から高い評価を得た上の結果です。

「策伝大賞は地元大学という理由で入学当初から出場していました。昨年は決勝まで行きながら悔しい思いをしたので、今年こそはという気持ちが強かったかもしれません」。そんな高木さんですから、さぞや練習を重ねたのではと尋ねたところ、意外な答えが返ってきました。「ひたすらCDを聴くのが僕の練習スタイル。今回の演目では春風亭柳橋や古今亭志ん朝のCDを参考にしました。身振り手振りの基本は、動画サイトやビデオでチェックして、自分なりにアレンジしていますね。台本という台本はありません。話の流れを箇条書きにし頭に叩き込んだら、あとはお客さんの前でやってみるといった感じです」。

この春、4年生になった高木さんの目標は、落語研究サークルを盛り立てることと後輩の育成だそう。その後輩に向けて「策伝大賞はあくまでも成果の一つ。大事なものは日頃から公民館などいろんな施設で落語をやることです。やはり、たった一人でたくさんのお客さんを愉ませられるのが落語の魅力ですから」とメッセージを送る高木さんは、舞台の顔とは違う、少しくールな語り口が印象的でした。

## 課外活動

平成 23 年 1 月 22 日 (土)

### 全国一斉わんにゃんプロジェクト！

本学の学生を中心に結成されたサークル「Dream Box」。犬猫の殺処分の現状をより多くの人に知ってもらおうと、県内外の小・中・高校などで啓発活動を行っています。

今回、「全国一斉わんにゃんプロジェクト」と題し、JR岐阜駅前などで自主製作した



リーフレットを配付。帯広畜産大学や北里大学など他大学の有志たちにも協力を呼びかけ、全国各地で犬猫の殺処分削減を訴えました。

## 大学

平成 22 年 11 月 4 日 (木) ~ 7 日 (日)

### 第62回 岐大祭 -みち- を開催

学生が自主的に企画・運営する「第62回岐大祭」が、秋晴れのもと、盛況のうちに終了しました。今年は「-みち-」をテーマに、今まで歩んできた道(過去)とこれからの未知の世界(未来)を考えるきっかけとなることを願って開催されました。

当日は、ゼミやサークルが模擬店を出店。お笑い芸人による屋外ライブやステージイベントなど、趣向を凝らした催しも実施されました。多くの方にご来場いただき、ありがとうございました。



大学

平成22年11月10日(水)

## よりよい岐阜大学を目指し、学生と役員が意見交換

工学部と医学部にて「学生と役員との意見交換会」が開かれました。「ともに考えよう岐阜大学の目指す人材養成像実現のため必要なこと」をテーマに、森学長ら役員が各学部・研究科へ出向き、学生の生の声に耳を傾けました。

工学部では77人の学生が出席。「オンラインで見ることができる電子ジャーナルを多くしてほしい」「国際性を身に付けるために、留学生を増やして英語による授業を多くしてほしい」などの意見が上がりました。30人が参加した医学部では、「実習などの予定を早く知らせてほしい」「図書館やセミナー室の開放時間を長くしてほしい」などの要望が寄せられました。

森学長は「意見を真摯に受け止め、今後に生かしていきたい」とあいさつ。要望については、大学全体及び当該部局で検討し、対応状況を報告していきます。この意見交換会は、他学部や連合大学院でも順次開催しました。

現在、電子ジャーナルの拡充については、平成24年度以降に新たなパッケージを導入する方向で検討、英語能力の向上については、学部の特性に合った英語教育内容、新カリキュラムを検討しています。他の事項についても、大学及び各部局で検討しています。

また、構内案内板を見やすくするとともに、主要箇所新たに案内板を設置するなど環境整備を行いました。



大学

平成22年11月5日(金)・6日(土)

## 岐阜大学フェア2010を開催

岐大祭と同時開催された「岐阜大学フェア2010」では、日頃の教育と研究の成果を一般公開しました。2日間にわたり、下記の通り多くの方にご来場いただきましたことを、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



来場者数(人数)

会場	5日	6日	来場者数計(人)
講演会	【特別講演】 171人	【シンポジウム】 296人	467人
パネル会場	262人	640人	902人
模擬授業	—	110人	110人
廃水処理施設見学	15人	35人	50人
来場者数計(人)	448人	1,081人	1,529人

大学

平成22年10月6日(水)

## 応援奨学生決定通知交付式を実施

昨年の創立60周年を機に立ち上げた岐阜大学基金による事業の一環として開始した応援奨学生制度。平成22年度の奨学生18人を決定し、決定通知書交付式を行いました。

森学長は「本奨学金の趣旨を理解し、学生生活を有意義に過ごしてほしい」と激励。応援奨学生代表の教育学部4年渡部優姫さんは「有効に活用し、後輩の模範になりたい」と抱負を述べました。



地域科学部

平成22年11月30日(火)

## 地域科学部が2大学と協定を締結

地域科学部が、岐阜経済大学及び岐阜市立女子短期大学との間で、連携協定を締結しました。岐阜経済大学の谷江幸雄学長は「学部・学科が多様な国立、公立、私立の大学が連携し、それぞれの特色を生かしていきたい」と述べ、地域科学部の口藏幸雄学部長は「『個々の大学』としてではなく『岐阜』の大学として人材育成に力を注ぎ、地域社会発展のために大学から岐阜の魅力



を発信していきたい」と思いを語りました。

大学

平成23年3月25日(金)

## 1861人の新たな門出にエール

長良川国際会議場にて「平成22年度学位記授与式」が行われ、学部学生1354人、大学院学生507人が卒業・修了しました。

森学長は「前途を切り開く気概が、明日のこの国の発展に重要です。可能性を信じて進んでいただきたい」と告辞。学生代表は「大災害からの復興、日本の発展に対して何をすべきかを常に考えながら邁進していきたい」と力強く語りました。

また、式場の外では、学生有志らが東北地方太平洋沖地震への募金活動を行いました。

